

平成 22 年度事業報告

自 平成 22 年 4 月 1 日

至 平成 23 年 3 月 31 日

公益財団法人 日 本 棋 院

東京都千代田区五番町 7 番地 2

目 次

概況

I 囲碁普及活動の充実強化

1 青少年への囲碁普及活動の充実

- 1-1 みんなで学ぶ楽しい囲碁入門教室の自主継続
- 1-2 学校教育への 囲碁導入推進
- 1-3 学校囲碁指導員講習会の開催継続
- 1-4 こども囲碁教室を全国各地で開催
- 1-5 青少年囲碁大会の開催
- 1-6 囲碁少年少女育英資金による事業を継続
- 1-7 囲碁に関する研究と大学及び高校での囲碁授業を継続

2 国内への囲碁普及活動の活性化

- 2-1 会員制度の充実・強化
- 2-2 法人会員と法人賛助会員の維持拡大
- 2-3 全国囲碁組織の統括と各組織の活性化支援
- 2-4 免状発行
- 2-5 インターネットによる普及事業
- 2-6 院内事業の充実・強化
- 2-7 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

3 海外への囲碁普及活動

- 3-1 国際囲碁連盟（I G F）の事務局活動
- 3-2 国際囲碁選手権・大会の運営・各地囲碁大会の後援・支援
- 3-3 棋士海外派遣事業
- 3-4 海外囲碁会館の運営
- 3-5 第 16 回広州アジア競技大会出場

II 棋道研鑽推進

- 1 棋戦の運営
- 2 院生研修制度の充実強化

III 出版事業

- 1 雑誌・新聞の発行
- 2 書籍発行
- 3 電子書籍化

IV 広報活動

V 各拠点での活動

- 1 八重洲囲碁センター
- 2 関西総本部
- 3 中部総本部

(別紙) 平成 22 年度主な棋戦の結果

概 況

本年度は、公益認定取得に向けた活動及び日本棋院の使命である棋道の発達と囲碁普及活動の充実に努めた。

平成 22 年 12 月に内閣府に公益財団法人への移行認定申請を行い、平成 23 年 3 月 25 日公益認定等委員会から内閣総理大臣への公益認定の答申がなされ、同月 29 日、内閣府より公益財団法人として認定する「認定書」を受領、平成 23 年 4 月 1 日に、公益法人への移行登記を行った。

I 囲碁普及活動の充実強化

囲碁は、自由な発想と創造性を育み、脳の活性化効果や生きがいの形成、コミュニケーションに役立つことが福祉、医学、教育界で認知されてきている。本年度は、特に青少年への囲碁普及に重点を置きつつ、幅広い世代を対象に積極的な活動を展開した。

1 青少年への囲碁普及活動の充実

日本棋院では、囲碁が青少年の健全育成に寄与し、学校教育に役立つことへの理解を求める活動をしてきた。「生きる力を育む」といった学校教育のテーマが囲碁を通じて得られることが、各教育機関をはじめ他分野からも注目が集まっており、地方自治体・教育委員会・学校と協力体制をとり、地域に密着した囲碁事業の取り組みを広く展開した。

1-1 「みんなで学ぶ楽しい囲碁入門教室」の自主継続

平成 21 年度に文化庁より受託した生活文化普及支援事業の囲碁部門「みんなで学ぶ楽しい囲碁入門教室」を各地の囲碁普及団体等と連携し、継続的に学べるよう自主開催した。全国で 12 箇所 12 回実施。

1-2 学校教育への囲碁導入推進

小・中・高校・地域に密着した囲碁事業を推進するため、今年度、東京都では東京都教育庁・江東区・東久留米市、そのほか新潟県湯沢市、埼玉県行田市・春日部市、島根県大田市、沖縄県奄美市・那覇市、浦添市などで地方自治体、行政に囲碁の取り組みを依頼した。

秋田県大仙市、東京都品川区、埼玉県北本市では行政囲碁事業のモデル地区として活動が行われており、その他にも秋田県横手市、栃木県足利市、群馬県太田市、茨城県取手市・つくば市、埼玉県川口市、長野県大町市、神奈川県平塚市・川崎市・横須賀市、島根県益田市、東京都大田区・世田谷区・三鷹市・小金井市・久留米市等においても学校囲碁普及を展開中である。

＜主な行政囲碁事業の取り組み＞

【秋田県大仙市】（行政囲碁事業モデル地区）

平成 18 年から日本棋院と事業協定を結び、当初市内小学校 7 校からスタート。本年度は 16 校が囲碁を採用し、放課後やクラブ活動の時間に囲碁教室を開催した。囲碁を学ぶ 179 人の小学生を指導するのは地域のボランティア 49 人で、市教育委員会の推薦を得て、日本棋院が認定する学校指導員の資格を得ている。

現在、大仙市における囲碁事業は、学校囲碁教室、月末土日の「大仙囲碁道場」、

毎週金曜日の「学びい囲碁サロン」を3本柱とし、市内の子どもが交流できる機会を設けている。

【東京都品川区】

放課後子どもプラン『すまいるスクール』で囲碁教室を開催。区内小学校38校のうち、31校が囲碁を採用した。品川区は「放課後子どもプラン」（文部科学省・厚生労働省）において、東京都各区で囲碁を導入する際の推進モデル地区となる。また、6月には、「品川区ジュニア囲碁フェスタ2010」を開催し、約500名が参加した。

【埼玉県北本市】

北本ジュニア囲碁まつりを開催。地域の団体グループや日本棋院等が協力し、囲碁まつり実行委員会を発足。市内の小中学校では囲碁体験教室、総合学習時間などで囲碁を採り入れ、指導者講習では独自のマイスター研修を行った。

1-3 学校囲碁指導員講習会の開催継続

学校教育に囲碁を導入するため、また良き指導者を養成するために、財団法人JKA競輪補助事業の後援助成を受け、学校囲碁指導員講習会を全国17会場で開催した。

1-4 こども囲碁教室を全国各地で開催

- (1) 日本棋院会館内のこども教室及び入門教室を充実強化した。
- (2) 文化庁の「伝統文化こども教室事業」を紹介し、日本棋院各支部や各自治体等が主催する「こども囲碁教室」を全国的に展開した。
- (3) 昨年に引き続き、ヒカルの碁スクールを全国47会場で実施した。

1-5 青少年囲碁大会の開催

高校生以下を対象とした3つの全国大会及び地区大会を開催し、また、各県や団体が開催する子ども大会への協力・後援を積極的に行なった。

(1) 第31回 文部科学大臣杯 少年少女囲碁大会

各県大会を勝ちあがった選手の全国大会を8月3日～4日の2日間、東京の日本棋院で開催。地方大会は4,952人が参加（小学生:3,390人・中学生:1,562人）。地方大会において複数会場開催を呼びかけ、入門初級者を含めた認定大会を開催し、参加校、参加人数増を目指した。全国大会は小学生101人、中学生101人が参加し、大会の様子はNHK教育テレビで放送された。小学生の部は6年生の重田一就君（神奈川県・川崎市立富士見台小学校）が優勝し、中学生の部は2年生の大表拓都君（富山県・富山市立月岡中学校）が優勝した。

(2) 第7回 文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦

小・中学校での部活動や正課授業の取り組みの一助として大会の充実を図り、地方大会は小学校311校、1,212人、中学校223校、866人が参加。全国大会は8月1日～2日の2日間、小中学生それぞれ1チーム3名編成の学校単位のチームの団体戦で開催し、小学校、中学校それぞれ64校、192名が参加。新潟・新潟市立新津第三小学校、栃木・栃木市立栃木南中学校がそれぞれ優勝した。本大会は財団法人JKAの青少年の健全育成補助事業の指定を受けて開催している。

(3) 第34回 文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会

地方予選では1,270校、4,521人（男子:3,529人・女子992人）が参加。各都道府県大会を勝ち抜いた代表選手による全国大会は7月26日～28日の3日間で、団体戦個人戦を行い、男子団体（代表48校）は、京都・西京高校、女子団体（代表44校）は、

京都・洛北高校が優勝。男子個人(代表 96 人)は、大谷直輝君(京都・桃山高 3 年)、女子個人(代表 49 人)は、呉理沙さん(千葉・東葉高 3 年)が優勝した。本年度も地方大会において複数会場開催を呼びかけ、さらに参加校、参加人数増を目指した。昭和 54 年第 3 回大会より財団法人 J K A の青少年の健全育成補助事業の指定を受けて開催している。

(4) 第 13 回任天堂こども大会

中学生以下のこどもを対象に 5 月 5 日、日本棋院で開催。マリオ、ピーチ等のキャラクターの名称を使つてのクラス分け、7 路盤、9 路盤、13 路盤、19 路盤の使用がこどもたちの人気を呼び、今年度も 1,334 人が参加した。

(5) その他の大会

- ・ジュニア囲碁大会
- ・丸の内キッズフェスタ
- ・ジュニア囲碁パーク

1-6 囲碁少年少女育英資金による事業を継続

全ての日本の子供たちに“囲碁の素晴らしさ”を伝える活動として、囲碁少年少女育英資金を有効活用して、今年度も下記事業を実施した。

1. 囲碁の学校教育への導入推進事業(学校指導員派遣のべ 159 名)
2. 子供たちの囲碁大会支援、普及支援事業(用具支援 31 校)

1-7 囲碁に関する研究と大学及び高校での囲碁授業を継続

(1) 東北大学加齢医学研究所との「囲碁と脳に関する研究」を継続

東北大学と日本棋院は、平成 17 年度より「囲碁と脳に関する研究」を行っており、平成 22 年度からは、囲碁入門者の親子を対象とする実証研究を開始した。平成 23 年度には、東北大学加齢医学研究所が実証研究の結果を分析して、囲碁が親子のコミュニケーションに与える影響を検証する予定。研究結果は、普及活動の側面支援に有効活用する。

(2) 東京大学教養学部との連携を継続

① 1～2 年を対象にした全学体験ゼミナール「囲碁で養う考える力」を継続

東京大学教養学部の「教養教育への囲碁の活用研究部門」は平成 21 年 9 月末で終了後したが、平成 22 年度以降、教養学部附属教養教育高度化機構が全学体験ゼミナール「囲碁で養う考える力」の継続を決めた。この講座は囲碁を通じて判断力・分析力・集中力など総合的な考える力を身につけることが目的で、平成 22 年度も日本棋院は講師として棋士を派遣するなど全面的に協力した。

② 「親子で学ぶ囲碁の世界 2010」を実施

2007 年より毎年夏に東京大学の駒場キャンパスで実施してきた「親子で学ぶ囲碁の世界」を教養教育高度化機構と日本棋院主催で 2010 年の 8 月に実施した。このイベントは囲碁の基本ルールを理解し、親子で 9 路盤対局ができるようにすることが目標、合わせて、囲碁の対局を通して親子間のコミュニケーションの促進を図ることを狙いとしている。2010 年も好評で 76 名の親子が参加した。

(3) 私立大学や都立高校における囲碁授業の実施

日本棋院は、私立大学や都立高校での囲碁授業の開設をめざして活動を展開した。平成 20 年度から都立忍岡高校で平成 21 年度からは都立白鷗高校において「日本の伝統文化」の一つとして囲碁の授業を開始した。

また、早稲田大学および慶応義塾大学での囲碁授業の開設に向けて、働きかけを行った結果、平成22年の4月より、両大学での囲碁授業開始を実現した。

2 国内への囲碁普及活動の活性化

囲碁を知らない方への入門指導、一般アマチュアの棋力向上に取り組み、世代を超えて生涯楽しめるものとして、地域社会でのコミュニケーションの手段として取り入れられるよう積極的に活動した。

2-1 会員制度の充実・強化

個人の会員には、賛助会員・普通会員Ⅰ（月刊碁ワールド）・普通会員Ⅱ（囲碁未来）・後援会員・週刊碁会員・セレクト会員の6種類あり、様々な棋力やニーズに対応している。会員の総数は、平成22年9月現在37,970名となっている。会員特典を生かした会員同士の交流、底辺の拡大で囲碁人口の増加を目指し、普及活動を推進した。

2-2 法人会員と法人賛助会員の維持拡大

(1) 法人会員

企業の福利厚生の一環として社内で囲碁交流を推進していただくため、会員誌の配布、棋士による指導碁等の特典を設けるほか、企業同士の交流会等を企画し、団塊の世代にむけ囲碁普及を推進した。

(2) 法人賛助会員の維持拡大と広報活動

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動の一環として、日本棋院が行う幅広い囲碁普及活動に賛助いただくもので、以下の活動に貢献して頂いた。

1. 子供たちへの囲碁の普及で社会に貢献
2. 若い囲碁の才能の発掘と育成
3. 囲碁の普及で高齢者の健康増進への貢献

なお、本年度は、引き続き、58社よりご支援を頂いた。

2-3 全国囲碁組織の統括と各組織の活性化支援

大阪の関西総本部、名古屋の中部総本部のほか、各県に県本部あるいは県支部連合会を設け、会員で組織される約700余の全国の支部を統括し、囲碁大会の主催、協力、後援を推進した。

(1) 都道府県民まつりの開催

1. 世界アマ選手権日本代表決定戦 県予選

世界アマチュア選手権の日本代表を決める全国大会への出場権を獲得するための予選には1,908名の参加を得た。年々参加国が増加し発展する「世界アマ大会」の唯一の国内予選として定着している。

2. 日本棋院支部対抗戦 都道府県大会

各県の大会・行事の中で開催し、地域間での親睦・交流を深めることを目的とし全国24カ所で実施した。

3. 段級位認定大会

級位者から高段者まで幅広く親しまれ、3,093名の参加を得た。特に底辺拡大を図るためにも、級位認定部門への参加を呼びかけた。

(2) 支部代表者懇談会の開催

全国の支部の代表者との懇談会を7会場で行った。

(東北地区は東日本大震災の影響により中止 関東地区は6月に延期)

(3) 普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰の実施予定

第31回普及功労賞 山本 紀(三重県支部連合会 前会長)

天池 三男(各務原支部 前支部長)

岩島 文治(松戸生涯学習支部 支部長)

第29回普及活動賞 全国で62名を表彰

平成22年度優秀支部表彰 会員数十傑 一位 讃棋支部(香川県) 349名

会員増十傑 一位 讃棋支部(香川県) 114名

(4) 棋士派遣

支部報奨派遣のほか、全国に棋士を派遣し、地域の活性化と囲碁普及を実施した。

(5) 囲碁未来教室開催

級位者のための「囲碁未来教室」は、雑誌「囲碁未来」をテキストに全国の支部・碁会所、普及指導員の協力により111教室で開催した。

(6) 普及指導員制度の拡充と指導員研修会の開催と派遣

地方での囲碁大会の運営、囲碁教室開催にて審判あるいは講師として活動する普及指導員は全国に646名おり、地域の囲碁普及に貢献している。また、研修会を開催し大会等への派遣も行った。地域での普及活動の実績及び県本部(県支部連合会)の推薦により公認審判員や県師範の資格についても取得可能とし、支部組織の活性化と囲碁普及を推進した。

2-4 免状発行

各種大会、段級位認定大会、支部からの推薦、新聞認定、Web認定等を行い全国で免状取得を促進し、アマチュアの棋力向上と囲碁普及に努めた。本年度は、免状キャンペーンを実施し、免状発行通数は2,003件(含む級免状)となった。

2-5 インターネットによる普及事業

インターネットを通じた情報発信は年々重要度を増しており、日本棋院では囲碁の素晴らしさを伝える手段として、インターネット環境での囲碁普及を推進している。囲碁ファンの拡大はもちろん囲碁に興味のある方への様々なアプローチを本年度の事業に盛り込み実施した。

(1) インターネット通信対局「幽玄の間」

あらゆる世代の囲碁ファンにパソコン上で手軽に対局が楽しめる環境を提供している「幽玄の間」では、対局の他に様々なサービスを展開した。

- ・大和証券杯ネット囲碁アマチュア選手権
- ・棋戦や主要なアマ大会の手順中継を行い、トップレベルの棋譜を配信
- ・棋士による指導碁
- ・棋士とのふれあいイベント
- ・同好会機能による囲碁ファン同士の交流

(2) 情報会員

情報会員には最新棋譜から過去の名局まで、50年以上に亘る、約5万局の棋譜データを提供している。また、ためになる棋譜解説、早わかりタイムトライアル等の講座、入門初級者向けのページの充実を図り様々なファン層に対応し、WEB上での段級位認定問題などを提供した。

(3) 碁バイルセンター

携帯囲碁サイト「碁バイルセンター」では、囲碁情報、棋譜鑑賞、対局、入門コンテンツや囲碁問題など、ドコモ、au、ソフトバンクの3キャリア向けにサービスの提供も行い、どこでも囲碁が楽しめるコンテンツを充実させた。

2-6 院内事業の充実・強化

(1) 囲碁学校・段級位認定大会・入門教室の開催

囲碁学校、入門教室を実施し、子供からシルバー世代まで幅広い層へ対応するとともに、段級位認定大会を随時開催して囲碁ファンの交流の場となるよう、また棋力向上につながるよう充実を図った。

(2) 級位者の日、有段者の集い開催

ここ数年は「級位者の日」が好評を得ており、有段者の集いとともに囲碁ファン拡大に努めた。

(3) 表彰、殿堂入り

今年度の3月29日に予定されていた合同表彰式は、東日本大震災の影響により中止となったが、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰する「大倉喜七郎賞」、優秀棋士を表彰する「秀哉賞」、「棋道賞」の各賞を以下の方々が受賞し、また棋士21名の昇段者に免状が授与された。その他、囲碁殿堂資料館のより一層の充実を目指し、平成22年度は、故木谷実九段が殿堂入りし、特別功労賞に品川区長濱野 健、平塚市長 大蔵 律子両氏が受賞した。(以下肩書きは受賞当時)

第40回 大倉喜七郎賞 藁科満治 (元民主党議員会長)
日高 實 (日本棋院鹿児島県支部連合会会長)
坂入達雄 (元NEC 役員)
工藤紀夫 (日本棋院棋士九段)

第48回秀哉賞 張 栩 棋聖・十段・王座

第44回棋道賞

〃 (最優秀棋士賞)	張 栩棋聖・十段・王座
〃 (優秀棋士賞)	山下道吾本因坊・阿含桐山杯者・竜星
〃 〃	謝 旻依女流本因坊・女流名人・女流棋聖
〃 (新人賞)	林 漢傑七段
〃 (女流賞)	謝 旻依女流本因坊・女流名人・女流棋聖
〃 (最多勝利賞)	山下道吾本因坊・阿含桐山杯者・竜星 (40勝23敗)
〃 (勝率第一位賞)	山城 宏九段 (0.8000)
〃 (連勝賞)	山下道吾本因坊・阿含桐山杯者・竜星 (16連勝)
〃 (最多対局賞)	山下道吾本因坊・阿含桐山杯者・竜星 (63局40勝23敗)

(4) 打ち初め式

1月5日を「囲碁の日」とし、毎年恒例の打ち初め式を開催し囲碁ファンと棋士の交流を図った。

2-7 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会および地域独自の大会を開催した。今年度の主な大会は以下の通り。

- (1) 第3回宝酒造杯クラス別チャンピオン戦
級位戦②（6級以下）、級位戦①（1～5級）から名人戦までの9クラスでそれぞれチャンピオンを決めるこの大会は、全国8ブロック、9会場で地方大会が開催され、3,200名余が参加した。
11月には全国大会を開いて各クラスのチャンピオンを決定した。
- (2) 第53回全日本女流アマ選手権戦
2011年3月11日に発生した「東日本大震災」の影響により、大会が中止となった。
- (3) 第48回女流アマ囲碁都市対抗戦
10月6日、7日の2日間、広島県尾道市で開催。全国33の都道府県から138チーム約690人が参加した。
- (4) 内閣総理大臣杯第10回全国アマチュア団体囲碁選手権大会
1チーム3名で誰でも参加できる団体戦で、東京と大阪の2会場で開催され、今年度は78団体、129チームが参加した。2会場の優勝チームは東京で決勝戦を行ない、東京代表・仲翔道場花巻支部に内閣総理大臣杯が授与された。
- (5) 全国規模イベントへの参加
今年度の「国民文化祭」は10月30日～11月7日に岡山県で行われ、「ねんりんピック健康福祉祭」は10月9日～10月12日に石川県・金沢市で開催された。
生涯学習、文化向上、健康福祉への一助として積極的に参加、協力を行った。

3 海外への囲碁普及活動

国際交流、文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介するとともにマインドスポーツという位置づけでも活動し囲碁人口の拡大を図るための活動を行った。

3-1 国際囲碁連盟（IGF）の事務局活動

1982年3月の設立以来、昨年までは会長を日本棋院歴代理事長が務め、「国際囲碁連盟」加盟71カ国・地域の事務局として、世界各国への囲碁の普及と世界の囲碁界の組織化に努めている。

3-2 国際囲碁選手権・大会の運営・各地囲碁大会の後援・支援

- (1) 第31回世界アマチュア囲碁選手権戦の支援
囲碁による相互理解と文化交流を趣旨に、各国の選抜戦を勝ち抜いた世界中のアマチュア囲碁愛好家が、国を代表して「世界一」を目指し、4日間にわたる熱戦を繰り広げる大会。本年度は中国杭州の杭州棋院にて60人の選手が参加した。
- (2) その他アマチュア国際大会、国際交流の支援及び後援
 1. 国際アマチュア・ペア碁選手権大会の後援
 2. 世界学生囲碁王座戦の協力
- (3) 各地囲碁大会の後援
 1. インドネシアジャカルタ4カ国対抗国際親善囲碁大会
 2. ドイツデュッセルドルフ日本国総領事杯
 3. ドイツベルリン日本国大使杯
 4. キルギス日本大使杯

3-3 棋士海外派遣事業

各官公庁・民間団体等の支援を得て、専門棋士を海外に派遣し、囲碁の紹介と入門・指導を行い普及に努め、外国語の教材の作成、盤石の提供を行った。

(1) 文化交流使の支援

文化庁の「文化交流事業」である世界の人々に日本文化への理解の促進と日本と外国の文化のネットワーク形成・強化をつなげるため、日本文化の紹介などをする文化交流使に棋士を推薦し、その活動に支援を行った。

(2) US 碁コンGRESSへの棋士派遣

コロラド州コロラドスプリングス 棋士1名 9日間

(3) オーストラリア碁コンGRESSへの棋士派遣

ブリスベーン 棋士1名 10日間

3-4 海外囲碁会館の運営

ブラジル・サンパウロの日本棋院南米本部をはじめオランダ・アムステルフェーンの日本棋院ヨーロッパ囲碁文化センター、シアトルの米国西部囲碁センター、ニューヨーク碁センターを拠点とし、現地の普及活動の支援を行った。

3-5 第16回広州アジア競技大会出場

日本棋院は他2団体とともに「全日本囲碁連合」を設立し、JOCの承認団体となる。事務局本部を設置し、国内での広報活動、選手へのアンチドーピングの周知活動等、初めてスポーツ競技大会のカテゴリーに進出するための活動を実施した。

中国広州市 棋士8名を派遣(11日間)。男子団体が3位入賞。

II 棋道研鑽推進

1 棋戦の運営

プロ棋戦は、新たな棋譜を未来へ残し、棋道の研鑽と発達に重要な役割を果たしている。国際棋戦では囲碁の国際化にも貢献し、インターネットを使用したネット棋戦では、新しい棋戦の形を囲碁ファンに提供している。若手棋士の育成強化を目的とする研鑽棋戦(幽玄杯)も、一部でネット対局を実施した。

本年度に行われた棋戦の結果は別紙の通り。

2 院生研修制度の充実強化

院生制度は、棋士の育成を目的とする日本棋院発足時から存在する伝統ある制度。国際的にも通用する強い棋士の養成が、日本の囲碁界の発展と囲碁普及に極めて重要なものと位置付け、研修日には院生師範をおき、礼儀作法から院生の指導を行った。本年度も、以下の院生強化支援制度により院生研修を充実強化した。

(1) 内弟子支援制度

内弟子院生の指導に当たる棋士と内弟子院生の保護者への支援

(2) 成績優秀生支援

成績優秀生の研修費(授業料)免除

(3) 院生検討会

院生の研修日にタイトル経験のある棋士による解説検討会を毎回開催し、院生の強化を図る。

(4) 院生ネット指導

インターネット上で棋士と対局し、個別に指導を行ない院生の強化を図る。

Ⅲ 出版事業

日本の伝統文化である囲碁を出版物という記録に残し、次代に伝承していくことは、日本棋院にとって大切な使命と考えている。

日本棋院会員読者及び囲碁ファンに対して、週刊紙「週刊碁」、月刊誌「碁ワールド」「囲碁未来」などの刊行を継続し内容の充実を図った。

定期刊行物以外にも新刊書籍を発刊して、囲碁ファンのニーズに応え、日本棋院のホームページで、既刊書籍案内及び各種新刊案内・定期刊行物案内、更にはキャンペーンやイベントなどの情報提供を行った。

また、次世代の出版物として電子書籍の開発に着手した。

1 雑誌・新聞の発行

(1) 月刊「碁ワールド」(会員誌)

中級から有段者向け月刊誌として、棋戦解説を中心にグラビア、講座、読み物、海外ニュースなど、バラエティーに富んだ編集方針のもと、会員読者への提供及び書店への流通を行った。

(2) 月刊「囲碁未来」(会員誌)

入門から初段を目指す人までを対象に、棋力向上を中心とした布石、定石の問題、入門初級者向けの囲碁情報を掲載している。囲碁未来教室の活用により、全国各地の支部、碁会所、普及指導員とリンクした級位者の拡大を推進した。

(3) 「週刊碁」(会員紙)

囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座、認定問題など、幅広い読者層を意識した多彩な構成となっている。

(4) 「囲碁年鑑」

月刊碁ワールドの臨時増刊号として、5月に発行した。平成21年一年間の国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑などの情報が満載。有段者及びリピーター読者から変わらぬ支持をいただいている。

2 書籍発行

書籍は、さまざまな棋力の読者に向けて刊行しており、入門者から初段を目指す方々に向けては、基本的な上達講座本や置基本、シリーズの総合問題集を、有段から高段に進もうとしている方々には、週刊碁や碁ワールド誌の連載講座を単行本化したものなどを数種刊行。

3 電子書籍化

次世代の出版物として電子書籍の開発に着手。囲碁ファンの利便性を追求した新たなコンテンツを提供するため、既存の週刊碁、碁ワールド、囲碁未来や書籍の電子書

籍化を企画。平成23年3月、週刊碁の電子書籍（無料版）の提供を始めた。5月から
は週刊碁電子書籍（有料版）の販売を開始する予定。

IV 広報活動

日本棋院が主催・後援する国内外の棋戦や大会情報だけでなく、幅広く碁界の情報を
収集して、囲碁ファンや報道関係者の皆様にタイムリーな情報の発信を行った。

(1) 日本棋院ホームページの充実

より見やすく利用しやすいページを目指して、各種のコンテンツを発信した。最新
囲碁ニュース（棋戦結果速報）やイベント情報、棋士プロフィール等の囲碁情報はも
ちろん、これから囲碁を始めたい方のための簡単入門ページなど、囲碁ファンに向け
てタイムリーな情報提供を行い、囲碁普及に努めた。特に22年度は英語ページのリニ
ューアルを行い、海外の囲碁ファン向けに最新の囲碁情報を提供した。

日本棋院ホームページ <http://www.nihonkiin.or.jp>

(2) 記者懇談会の開催

囲碁を通じて、様々な公益活動を展開する日本棋院の活動への理解を深めて頂くた
めに、囲碁担当記者との懇談会を隔月で開催して情報発信及び意見交換を行った。

(3) プレスリリース

囲碁に関するニュースを随時作成し、囲碁担当記者を中心に配布した。

V 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を活かしながら東京本院と一体になって本年度の
事業計画を推進し、積極的に活動した。

1 八重洲囲碁センター

東京駅・八重洲北口という地の利を活かし、全国の囲碁ファンへ総合的なサービスセ
ンターとしての役割を担っている。当センターでは、棋士による指導碁をはじめ、盤
石や囲碁用品、書籍の販売、級位者から有段者までの囲碁学校、特にこども教室の充
実に努め、常にファンサービスに力を入れている。貸室サービスも順調で今後もより
多くの各種囲碁大会、碁会に利用していただけるようPRし、より一層のファンサー
ビスを心掛けるとともに、囲碁ファンの底辺拡大にも特に注力し活動した。

2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県（大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、
和歌山）と広島、岡山両県を統轄し、東京本院の事業計画の実施と関西総本部独自の
事業を展開し、囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組んだ。

(1) 関西管内囲碁普及

各府県の各種大会の開催定着を図り、府県下の支部活動を活性化し、会員及び囲碁
ファンの拡大に努めた。支部に対しても棋士が訪問し、より一層の親睦を深めると

ともに地域の囲碁普及に貢献した。また、当本部所属の井山裕太九段が初めて名人位を防衛し、昨年に引き続き関西碁会の発展に大きく寄与した。

(2) 各種大会の開催及び後援

関西総本部が独自に実施した主な事業は以下の通り

①夏休みこども囲碁フェスティバル2010

夏休みに毎年開催している上記大会を8月8日に行い昨年より多い延べ800名が参加した。今大会は、囲碁を始めたばかりの「ポン抜きクラス」「九路盤クラス」への参加者が増え、高段者が揃った「こども王座戦」では大人顔負けの大熱戦が繰り広げられた。ここ2、3年、参加人数は増加傾向にあり年々充実した会となっている。

②第43回歳末たすけあいチャリティー囲碁まつり

歳末たすけあい運動の一環として毎年末に行っている上記大会を12月19日に開催した。初の名人位防衛を果たした井山裕太名人をゲストに迎えた記念イベント「名人戦七番勝負自戦解説会」では、名人自らが対局中の秘話などを披露し、会場は大いに盛り上がった。

収益金は、毎日新聞大阪社会事業団を通じて福祉施設や学校への囲碁用品寄付などに役立てる。

③第3回比叡山囲碁まつり

7月31日～8月1日の2日間、比叡山延暦寺会館で開催。クラス別リーグでは、名人クラスの優勝者が井山裕太名人と対局出来るとあって、特に盛り上がりを見せた。

④各種イベント

定例認定大会(5・9・11・3月) 級位者大会(4・12月) 忘年碁会(12月)
GW団体戦(5月)、納涼囲碁大会(8月) 新春認定大会(1月) 他

(3) 会館事業の活用

6Fホールでは一般対局の他、指導碁、級位者の日、有段者の集いそして解説会を行い、初心者から有段者まで幅広く棋力向上に貢献した。また、6・11Fを利用した貸席等も増え、地域及び各種団体の囲碁普及の一助となった。

(4) こども達への囲碁普及の充実

関西のこども達への囲碁普及をより充実させるため、昨年に引き続き子供大会を関西棋院と共催して行ったほか、色々な面で協力し囲碁普及の拡大に努めた。

(5) 盤石・書籍・囲碁用品の販売

囲碁書籍や用品の在庫の充実や見直しを行い、囲碁愛好者のニーズに応えた。また、近畿2府4県を問わず各種イベントに出店し、各地域の囲碁普及の発展に寄与した。

3 中部総本部

囲碁ファンの底辺拡大を図る館内各種イベント「級位者の日」(毎週水曜日)・「HAPPY有段者・級位者」(毎週土曜日開催)・「いつでも入門」(毎週日曜日に開催)の定着を図り、中部管内の日本棋院支部・自治体・サークルを中心に囲碁入門教室を開催するなど底辺拡大に繋げる普及活動に努めた。

(1) 中部管内の囲碁普及活動

日本棋院支部連合会、各支部の主催するイベントの後援と協力協働を図り、支部強化を推進した。また、賛助法人・地域サークルを中心に、入門講座の実施や囲碁学校の受講招待など普及促進を図った。

(2) 各種大会の主催・共催等

中部総本部が独自に実施した主な事業は以下の通り。

①アクティブシニアフェアー2010

4月9日（金）～12日（月）ナゴヤドーム (延べ429名)

②第25回愛知県・江蘇省青少年囲碁交流 代表選抜戦・認定大会

4月29日（祝/木） (124名)

③第35回朝日アマ囲碁東海地区団体十傑戦

5月16日（日）32チーム (96名)

④第25回愛知県・江蘇省青少年囲碁交流（訪中）

8月17日（火）～21日（月） (日本選手団12名)

⑤中部の囲碁ゼミナール

9月13日（日）～15日（火）三重県・鳥羽シーサイドホテル (100名)

⑥第16回囲碁の祭典

10月10日（月）

三重県鈴鹿市・鈴鹿市文化会館 (450名)

⑦第12回中部こども級位者囲碁大会

10月24日（日） (258名)

⑧日本棋院会員と棋士 囲碁のつどい

12月19日（日） (207名)

⑨第47回日経杯・テレビ愛知杯争奪 新春囲碁大会

1月23日（日） (192名)

⑩第29回ジャンボ団体囲碁選手権大会

2月27日（日）21チーム (231名)

(3) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

中部総本部「第51期王冠戦」を終了。挑戦者・山城宏九段が羽根直樹王冠位を破り王冠位を獲得した。

(4) 指導碁・囲碁学校・級位者、有段者の日

指導碁は、平日1名、土・日曜日は2名のプロ棋士を配して、法人・個人会員のサービスの一環として実施。囲碁学校においては、入門から初級までの一貫したステップアップ講座など全11コースの充実を図った。来館者へのサービスでは、それぞれの棋力に合わせた「10アンダーの日」・「級位者の日」・「有段者の日」「Happy級位者・有段者」・「いつでも入門」を日替わりで実施し、青少年からシルバー世代層まで幅広い囲碁ファンへの普及活動を行った。

平成 22 年度 主な棋戦の結果は以下の通り

1. 棋聖戦 第 35 期棋聖決定七番勝負
張 栩棋聖 — 井山 裕太名人
(張 栩棋聖が 4 勝 2 敗で棋聖位を防衛)
2. 名人戦 第 35 期名人決定七番勝負
井山 裕太名人 — 高尾 紳路九段
(井山 裕太名人が 4 勝 0 敗で名人位を防衛)
3. 本因坊戦 第 65 期本因坊決定七番勝負
羽根 直樹本因坊 — 山下 敬吾天元
(山下 敬吾天元が 4 勝 1 敗で本因坊位を奪取)
4. 十段戦 第 48 期十段決定五番勝負
張 栩十段 — 山下 敬吾天元
(張 栩十段が 3 勝 0 敗で十段位を防衛)
5. 天元戦 第 36 期天元決定五番勝負
山下 敬吾天元 — 結城 聡九段
(結城 聡九段が 3 勝 0 敗で天元位を奪取)
6. 王座戦 第 58 期王座決定五番勝負
張 栩王座 — 山田規三生九段
(張 栩王座が 3 勝 0 敗で王座位を防衛)
7. 第 23 回世界囲碁選手権戦富士通杯
孔 傑九段 — 李 世ドル九段
(孔 傑九段が勝ち優勝)
8. 碁聖戦 第 35 期碁聖決定五番勝負
張 栩碁聖 — 坂井 秀至七段
(坂井 秀至七段が 3 勝 2 敗で碁聖位を奪取)
9. 新人王戦 第 35 期新人王決定三番勝負
三谷 哲也六段 — 白石 勇一三段
(白石 勇一三段が 2 勝 1 敗で新人王を獲得)
10. 女流本因坊戦 第 29 期女流本因坊決定五番勝負
謝 依旻女流本因坊 — 向井 千瑛四段
(謝 依旻女流本因坊が 3 勝 0 敗で女流本因坊位を防衛)
11. 女流名人戦 第 23 期女流名人決定三番勝負
謝 依旻女流名人 — 向井 千瑛四段
(謝 依旻女流名人が 2 勝 1 敗で女流名人位を防衛)
12. 女流棋聖戦 第 14 期女流棋聖決定三番勝負
謝 依旻女流棋聖 — 梅沢由香里五段
(謝 依旻女流棋聖が 2 勝 0 敗で女流棋聖位を防衛)

13. NHK杯トーナメント戦 第58回
依田 紀基九段 — 山田規三生九段
(山田規三生九段が勝ち優勝)
14. NEC カップ囲碁トーナメント戦 第30期
張 栩棋聖 — 山下 道吾本因坊
(張 栩棋聖が勝ち優勝)
15. 竜星戦 第19期
山下 道吾本因坊 — 中野 寛也九段
(山下 道吾本因坊が勝ち優勝)
16. 阿含桐山杯全日本早碁オープン戦 第17期
山下 道吾本因坊 — 二十五世本因坊治勲
(山下 道吾本因坊が勝ち優勝)
17. 王冠戦 第51期決定一番勝負
羽根 直樹王冠 — 山城 宏九段
(山城 宏九段が勝ち優勝)
18. 第5回広島アルミ杯若鯉戦
山本賢太郎五段 — 寺山 怜二段
(寺山 怜二段が勝ち優勝)
19. おかげ杯囲碁トーナメント戦 第1回
張 豊猷七段 — 大橋 拓文四段
(張 豊猷七段が勝ち優勝)
20. 大和証券杯ネット囲碁グランドチャンピオン戦 第4回
張 栩棋聖 — 高尾 紳路九段
(高尾 紳路九段が勝ち優勝)
21. 大和証券杯ネット囲碁オープン 第6回
張 栩棋聖 — 井山 裕太名人
(井山 裕太名人が勝ち優勝)
22. 大和証券杯ネット囲碁レディース 第4回
万波 佳奈四段 — 奥田 あや二段
(万波 佳奈四段が勝ち優勝)
23. 第4期 幽玄杯精鋭リーグ戦
蘇 耀国八段が優勝